



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島教区
電話099(226)5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行人 末吉卓也
1部60円年間〒共1100円

教会のこよみ

2日	復活節第四主日
3日	世界召命祈願日
9日	聖マリア使徒
14日	復活節第五主日
16日	復活節第六主日
23日	世界広報の日(献金)
23日	主の昇天
30日	聖霊降臨の主日
31日	聖母の訪問

教皇ヨハネ・パウロ二世メッセージ

世界召命祈願日(五月二日)に

[要約]

一、「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい」(ルカ一〇・二)

使徒たちに向けられたイエスのこのことばから、よい牧者の温かい心を知ることが出来る。この「第四十一回世界召命祈願日」にあたり、すべての信者が司

祭・奉獻生活者・宣教奉仕者の召命のために心を一つにして熱心に祈るよう求めらる。これは信者の第一の務めである。

二、召命のために祈ろう
使徒的書簡『新千年期の初めに』の中で「多方面で世俗化が進んでいるにもかかわらず、世の中に霊性の要求が普及していることは、今日見られる『時のし

るし』です。このしるしは、世界の大部分において、祈りの新たな必要として表面化してきた」(三三)と述べた。そして今、世界各地の教会に召命のために祈る場が設けられ、また大神学校や修道会・宣教会の養成の場では、そのための取り組みが行われている。加えて各家庭においてもイエスの招きに寛大にこたえるよ

うにと若者を励ましている。教会において主キリストにのみ仕える召命は、神の善良さの計り知れない賜物であり、執拗に、信じて謙遜に願ひ求めるべき賜物である。だからキリスト者は恵みと訪れの時を無駄にしないよう目覚めて、この賜物に自己を開いていなければならぬ。

三、司祭への召命、奉獻
世界各地の多くの病める人たちの祈りは、イエスの十字架にその痛みを合わせることで最も効果的な執り成しの祈りとなる。

五、主よ、あなたに信頼して祈ります！
神の御子、あらゆる時代の人々と、全世界に広がるすべての人に、御父から遣わされた御子よ！
あなたの母であり、私たちの母であるマリアを通してあなたに嘆願します。教会において、万国のために献身する人たちの召命がなくなることはありませんように。

「世界広報の日」(5月16日) 教皇メッセージ

メディアと家庭 (要旨)

—その危うさと豊かさ—

情報媒体の進歩と利用頻度の増大は、個人だけでなく家庭生活をも豊かにする機会であると同時に、家庭は矛盾するマスメディアのメッセージから新たな挑戦を受けることにもなる。今年のテーマ「メディアと家庭」その危うさと豊かさ」は、あらゆるコミュニケーションが、すべて倫理的な重要性を持つていることを伝達者と被伝達者双方に思い起こさせる。特にメディアの責任者や親、教育者の側にメディアをいかに使うかを見極める教養や識別力を要求している。それは社会の将来を担う子供や若者に多大な影響を及ぼすことになるからである。

報・教育・文化の伝播、精神的成長に至るまで無限の機会を与えている。しかしこの同じメディアが、生命や家庭・宗教・道徳に対する不適切、またゆがんだ見方を提供する一方で、家庭に重大な弊害をもたらす力ともなっている。

家庭についてのメディアの扱いは、時にそれを掛け替えない大切なものと表現しながら、離婚、避妊、墮胎、同性愛などを積極的に支持する。これは社会の共通善の侵害である。だから幸せな家庭にメディアが与える脅威を取り除

き、コミュニケーションという強力な手段が豊かさの真の源であり続けるために、伝達者自身と公的權威、そして親がしっかりとその責任を認識しなければならぬ。公的權威は、検閲の力を借りなくてもメディアが家庭の善に反

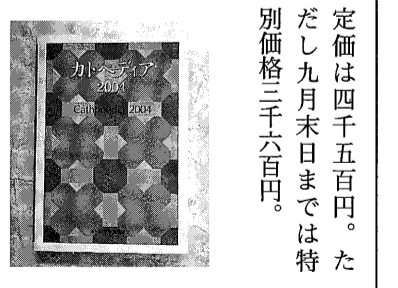
しても同様で「家庭でのマスメディアの利用方法を注意深く節度あるものにする」よう教育しなければならぬ。また自らが思慮深くメディアを選択し利用することで子供の手本とならなくてはならぬ。

そして社会広報のメディアは社会の刷新に貢献する可能性を持っている。だから広報の専門家達は、家庭の様々な問題を取り扱う際には、教養や正しい判断を働かせる倫理的責任を持つていることを承知すべきである。

私はこの世界広報の日に当たって、メディアが課すこの独特の特権と責務をよくわきまえるようお願いしたい。
〇四年一月二十四日
パチカンにて

カトリック教会を
読み解くためのデータブック
「カト・ペディア二〇〇四」発売

カトリック中央協議会は、世界と日本に広がるカトリック教会の全容を、三大特集を含む多彩な書き下ろし記事と豊富なデータで総



定価は四千五百円。ただし九月末日までは特別価格三千六百円。

生活への召命のために祈ろう
召命のための祈りがいつそう熱心にささげられるよう願う。その祈りの中心は聖体である。それは召された者が福音の告知に全面的に献身する力をキリストのあがないのいけにえからくみ取るからである。パンとぶどう酒の形色のもとに現存されるキリストの観想は、司祭職に招かれている者、あるいは教会の特別な

して行動しないよう取り締まり政策や処分を適切に打ち立て、また家庭を代表する者は、この政策作りにかかわる重要な役割を担うべきである。
特に子供にとって最も重要な教育者である親は、メディアにつ

また召命のために祈るあらゆるキリスト者共同体は「真の祈りの学舎」となる。そして教会はすでに招かれている人々と「小羊の行くところには、どこへでも従って行く」(黙一四・四)人たちが、つまり召命の賜物を受けた人、また「このような宝を土の器に」(二コリ四・七)持ち運んでいる人たちに同伴しななければならない。キリストの神秘のうちには、キリストの民全員の聖化に方向づけられた種々様々な職務とカリスマがある。皆が互いに聖性のために思いやり、その中で「召された人たちが自らの召命に忠実にとどまり、できる限り高い福音的完徳の域に達するように」と祈ることは絶対不可欠である。

招かれた人、司祭、奉獻された人の祈りは、「キリストが世にありながら世に属していない彼らを御父の愛のうちに聖化し、守ってくださるよう」と御父に祈っておられる「ようにキリストの司祭的祈りに組み入れられ、特別の価値を帯びる。
聖霊が全教会を祈る民に、司祭の召命と奉獻生活への召命をこい願うために御父に声を上げて祈る民としてくださいますように。

司祭の消息

シノドス後の使徒的勸告「現代の司祭養成」で、司祭が自分に代わる誰かを見出すよう強調している。それは福音の告知と秘跡の執行のための後継者作りの緊急性を司祭以上に分かっている人はいないからである。

十二月以来、田中整形外科で病氣療養中の小平神父は、四月半ばの検査で、新たな大腸の手術は不要と

分り、四月二十日に退院、紫原教会に戻った。生活しながらハリハビリに励み予定。
▼フリチエル神父(出水教会)
五月十日から十月二十九日まで休暇のため帰独。

〇三年十一月二十三日
パチカンにて

三・四年教会学 校カリキュラム

「カテケジス一般指針」(聖職者省)は、カテケジス(要理教育)が守るべき諸真理には順位があり、それは次の四つの基本的項目のもとに集約できると教えています(指針43番)。

一・父と子と聖霊であり、天地の創造主である神の奥義、二・処女マリヤから生まれ、苦しみを受け、わたしたちの救いのために死に、そして復活した、人となったみことばであるキリストの奥義、三・キリストが栄光に満ちて再臨するまで教会の中に現存

し、教会を聖化し、導く聖霊の奥義、四・処女マリヤが特別に優れた地位を占めるキリストの神秘体である教会の奥義。さらに「カテケジスは、七つの秘跡の十全な意味を説明するよう配慮すべきである」(56番)と述べています。また「要理教育の究極の目標は、だれかが単にキリストに接触するだけでなく、キリストとの交わり、またキリストとの深い親しみに入るところにある」ので(ヨハネ・パウロ二世使徒的勧告「要理教育」5番)、これらを踏まえて、小学校六年間全体を通して学ぶ内容を先月号で述べたように七つのテーマにまとめました。

3年生カリキュラム

典礼行事	月	テーマ	回	内容	その他
きょうやく時代のれきし	4		1	てんちのそうぞう	
			2	つづき	
			3	てんしとあくま、しゅごのてんし	
			4	ロザリオの唱え方	
	5		5	アダムとエバ	
			6	つづき	
			7	アダムとエバのつみ	
			8	つづき	
8	夏 休 み				
きょうやく時代のれきし	9	9	ノアのはこぶね		
		10	つづき		
	10	11	イスラエルの先祖 (アブラハム)		
		12	つづき		
	11	13	イスラエルの先祖 (ヨセフ)		
		14	つづき		
	12	15	エジプトからやくそくの地へ (モーセ)		
		16	つづき		
	1	17	イスラエルのみは王こくとなった		
		18	つづき		
	2	19	よげんしゃのじだい		
		20	つづき		
	3	21	すくいぬしはもうすぐおいでになる		
		22	つづき		

4年生カリキュラム

典礼行事	月	テーマ	回	内 容	その他
イエスのもたらした よい知らせ	4	イエスのもたらした よい知らせ	1	父である神のいつくしみ	
			2	つづき	
			3	主の祈り (天におられる私たちの父よ)	
			4	つづき	
	5		5	(み國が来ますように)	
			6	つづき	
			7	(日ごとの糧を今日もお与えください)	
			8	つづき	
8	夏 休 み				
イエスのもたらした よい知らせ	9	9	(私たちの罪をおゆるしてください)		
		10	つづき		
	10	11	(私たちも人をゆるします)		
		12	つづき		
	11	13	(誘惑に陥らせず悪からお救いください)		
		14	つづき		
たごたえ	12	15	神への信頼		
		16	つづき		
	1	17	他の人の隣人となる		
		18	つづき		
たごたえ	2	19	未来に向かって (パン種、からし種)		
		20	つづき		
	3	21	私の役割 (タラント、世の光)		
		22	つづき		

<KABAYAN SEKSIYON>

"ANG MULING PAGKABUHAY"

Mga Kababayan, maligayang bati ng Muling Pagkabuhay ng Panginoon! Noong petsa 11 ng Abril ay ipinagdiriwang natin ang Muling Pagkabuhay ng Panginoon hanggang sa ngayon. Iyong ang araw na ang Panginoon Hesus ay binuhay muli sa mga patay, at tayo rin ay bubuhayin muli sa huling araw. Linggo rin iyon ng buhay, at tinalo ang kamatayan. Iyon ang Mabuting Balita na dala ng Panginoon Jesus para sa ating lahat. Kaya ang lahat ng kalungkutan ay inalis at mabubuhay tayo kasama ng Panginoon. Sinabi nga ni Propeta Nehemia "Banal ang araw na ito sa ating Panginoon. Huwag kayong malungkot at umiyak sapagkat ating lakas ang kagalakan kay Yawe". Itong kagalakan na ibinibigay sa atin ng Diyos ay tanda ng Kanyang pag-ibig sa atin. Totoo ngang ang kamatayan ay tinalo at ang pag-ibig ay mananatili. Kaya nga binuhay muli ng Diyos ang kanyang sariling Anak na si Jesus sa mga patay, para ang lahat na nasa kadiliman ng kamatayan ay muling mabubuhay. Kaya sa lahat ng mga nalulungkot, naghihirap, nag-iisa sa buhay, ang Muling Pagkabuhay ng Panginoon ay nagbibigay ng malaking pag-asa at kagalakan. Kaya mga Kababayan kung sa araw-araw ay nakakaranas tayo ng kamatayan sa ating buhay huwag tayong mawalan ng pag-asa dahil ang ating Panginoon Jesus ay nabuhay muli sa mga patay. Ang kamatayan ay hindi lang sa laman, kundi sa espirtual na kamatayan. Subalit ang lahat na ito ay tinalo ng Panginoon Jesus, siya'y mabubuhay magpakailanman.

Totoong ang Panginoon ay nabuhay muli sa mga patay, Aleluya, Aleluya!
Hanggang sa susunod mga Kababayan...

Fr. Dino A. Orolfo

tel/fax 09972-2-0423

keitai: 090-2085-1094

今月の暦

(5月)

- 2日(日) 召命祈願日
- 9日(日) 教区財務委員会・教区本部・14時
- 10日(月) 出水教会献堂記念日(一九五五年)
- 17日(月) レデンブートル会例会
- 18日(火) コンベントゥス・教区本部・10時
- 20日(木) ヤジロウと二人の供ゴアで受洗(一五四八年)
- 21日(金) ゴア大聖堂でアルブケルケ司教からマリッジエンカウンター・マリヤ山荘・16時 日まで
- ▼日本カトリック女性団体連盟創立三十周年記念長崎大会・長崎・16日まで
- 23日(日) 教区財務委員会・教区本部・14時
- ▼教区修道女連盟研修会・ザビエル教会・10時 16時
- 24日(月) 三教区司祭合同懇話会・湯布院・18日まで
- 25日(火) 始良教会献堂記念日(一九八六年)
- 31日(月) 谷山教会献堂記念日(一九六四年)
- ▼旧ザビエル教会献堂(一九四九年ザビエル渡来四百年祭を機に)

6月
6日(日) カトリック北薩大会・大口明光学園

MEウイークエンド

夫婦の強い絆を確認しましょう!
日時: 5月21日(金) 19時~23日(日) 18時
場所: マリア山荘 参加資格: 信者夫婦。片方が信者の夫婦(求道者でも可)。また教会に理解のある未婚者夫婦も可。申込問合せ: 長山登志男・三千代(宮崎教会) Ⅷ〇九八五(73) 〇八七四
eメール Francisoshio@yahoo.co.jp

カバイヤン セクシオン (概要)

復活おめでとう、仲間たち。
主の復活は「死への勝利」、「よい便り」です。死は滅びますが、愛は決して滅びません。キリストの復活によって、苦しみ、悲しみ、孤独、絶望の中にいる人に希望と慰めが与えられます。だから仲間たち、毎日「死」に等しいことに遭遇しても絶望しないでください。霊を死なさないために。では、また。

中高生が長崎と大村巡礼 学習しながら深まった同世代の絆

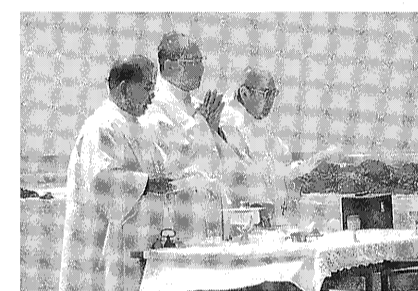


鈴田牟跡 (大村) で

春休み恒例の中高生巡礼(教区青少年委員会主催)が今年も三月二十九日(月)から三十一日(水)まで、

信者でない参加者三人を含む二十一(男子十二人・女子九人)で行われた。

今回の巡礼地は、長崎と大村。泉神父を団長に石田・末吉両神父と一人のリーダーとともに、中町教会、二十六聖人記念館、浦上、大浦の両天主堂、聖コルベ記念館、大村の殉教地などを巡礼した。他に巡礼日直



大熊小教区(美島春雄主任司祭)では、四月十一日(復活の主日)のミサを

話をしてくださった平本神父様(植松教区)は、殉教者たちが信仰を捨てなかつたのは仲間がいたからだと話されていた。キリシタン時代も現代も神とのつな

野外ミサに三百人

大熊教会の復活祭ミサ

野外でささげた。場所は龍郷町の手広海岸。ミサには児童養護施設「百合の寮」の子どもたちや古田町教会の信徒も加わり、参列者三百人(バス四台分)。



恒例の聖香油ミサが四月八日(木)午前十時から

「短信」

鹿児島カテドラルでささげられた。今年のこのミサには二十四人の司祭が教区内各地から駆けつけ、参列した百人ほどの信者たちとともに「奉仕的祭司職制定」を記念した。

▼ザビエルコンサート
歌とパイプオルガンの「ザビエルコンサート」が、三月二十六日(金)鹿児島カテドラルであった。美しい声を披露した松本英子さんはザビエル所属の信徒。

て冊子「名瀬聖心教会の今昔」(A四版、十一頁)を編集、島内の信者を中心に配布した。冊子には一九四五年四月の空襲で焼失した「レンガみどう」やカプチン会によって建てられた懐かしい聖堂の姿が写真で紹介されているほか当時の修道女や司祭、そして信者の様子も紹介されている。

その後は浦上教会の信徒会館「ルルド館」で慰労会と日本カトリック信徒宣教師会の宣教師として海外へ赴く当教会所属の泉純孝さん(泉浩一神父の叔父)の壮行会を開いた。(報告/平三國)

度のもので。ほとんどの人が日本に初めてキリスト教を伝えたのはフランシスコ・ザビエルであることを知っていますが、鹿児島に上陸したことはあまり意識していません▼一五四九年八月十五日聖母マリア被昇天の祝日の上陸。九月二十九日島津貴久を伊集院の一

ザビエルさまの散歩道

海を渡り日本に初めてキリストを伝え、鹿児島教区の保護者でもある聖フランシスコ・ザビエルにもつともつと親しんでもらおう！と、今月号からこのコラムを始めます。よろしくお願います。

歩いてみたいザビエル街道

宇治城に訪ねた道が西田橋から水上坂ルートのザビエル街道です。市来城(東市来町長里)や江口浜や川内河口などわたしたちの地域のことにその足跡がおおく残されていることを想うと感激です▼ザビエルの神様への燃える情熱は今もわたし達の心の中でingです。そ

このことは改めて神様の実りの多きを感謝し神様から何を求められているのか、自分自身に今何が出来るのか心に刻み込み祈り求めなければなりません。(二田正章)

実行委員会から：先日各小教区に「聖フランシスコ・ザビエルの取次ぎを願う祈り」のカードをお送りしました。共同体や個人でも、どうぞ利用して祈りを通してザビエル様と親しみましょう！

当コラムでは原稿を募集しています。連絡先は久保直基(教区本部 Ⅷ〇九九―二五四―一六七〇)まで。

ザビエル上陸記念祭実行委員会

わたしは聖フランシスコザビエルを初めて知ったのは、小学四～五生の歴史の授業で、十字架を手に掲げ日本にキリスト教を伝えるために鹿児島に上陸した師の教科書挿絵を覚えていました。中学校の試験に年号を記載する出題があり、一五四九年「いごよくひろまる」と暗記していた程

区に「聖フランシスコ・ザビエルの取次ぎを願う祈り」のカードをお送りしました。共同体や個人でも、どうぞ利用して祈りを通してザビエル様と親しみましょう！

当コラムでは原稿を募集しています。連絡先は久保直基(教区本部 Ⅷ〇九九―二五四―一六七〇)まで。

ザビエル上陸記念祭実行委員会

わたしは聖フランシスコザビエルを初めて知ったのは、小学四～五生の歴史の授業で、十字架を手に掲げ日本にキリスト教を伝えるために鹿児島に上陸した師の教科書挿絵を覚えていました。中学校の試験に年号を記載する出題があり、一五四九年「いごよくひろまる」と暗記していた程

わたしは聖フランシスコザビエルを初めて知ったのは、小学四～五生の歴史の授業で、十字架を手に掲げ日本にキリスト教を伝えるために鹿児島に上陸した師の教科書挿絵を覚えていました。中学校の試験に年号を記載する出題があり、一五四九年「いごよくひろまる」と暗記していた程

わたしは聖フランシスコザビエルを初めて知ったのは、小学四～五生の歴史の授業で、十字架を手に掲げ日本にキリスト教を伝えるために鹿児島に上陸した師の教科書挿絵を覚えていました。中学校の試験に年号を記載する出題があり、一五四九年「いごよくひろまる」と暗記していた程

わたしは聖フランシスコザビエルを初めて知ったのは、小学四～五生の歴史の授業で、十字架を手に掲げ日本にキリスト教を伝えるために鹿児島に上陸した師の教科書挿絵を覚えていました。中学校の試験に年号を記載する出題があり、一五四九年「いごよくひろまる」と暗記していた程

第48回国際聖体大会公式巡礼団 —グアダラハラ聖体大会とメキシコ巡礼—

大会テーマ：「聖体、千年期の光といのち」

旅行期間
Aコース：04年10月11日(月)～19日(火)
Bコース：04年10月10日(日)～20日(水)
旅行代金
Aコース：397,000円(成田発着、2名様1室利用)
Bコース：445,000円(成田発着、2名様1室利用)
団長：溝部 脩司教(仙台教区)
副団長：大塚喜直司教(京都教区)
副団長：イグナシオ・マルティネス神父(グアダラハラ宣教会日本管区長)
企画：日本カトリック司教協議会

聖体大会Aコース 9日間(概要)
11日成田発メキシコシティへ、12日グアダラハラ大聖堂・テペヤックの教会、13～17日国際聖体大会公式行事参加(市内巡礼や見学)、18日メキシコシティ発成田へ(機内泊)、19日解散
聖体大会Bコース 11日間(概要)
10日成田発メキシコシティへ、11日クエルナバカ大聖堂・聖フランチェスコ教会、12日ケタロへ、13～17日国際聖体大会公式行事参加(市内巡礼や見学)、18日グアダラハラ大聖堂・テペヤックの教会、19日メキシコシティ発成田へ(機内泊)、20日解散
※最小催行人員：20名様
お問い合わせお申し込みは
株式会社 阪急交通社
鹿児島支店
TEL099 (223) 2181

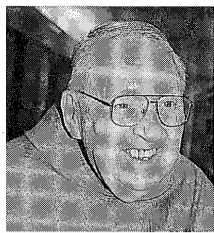
ゼローム神父の思い出

浦上教会 平 三国

奄美の父(笑顔のすてきなゼローム神父とも)・ゼローム神父様が帰天されて、三月十九日で早や一周忌を迎えました。神父様の二年前は、生誕八十年、修道誓願六十年、奄美宣教五十年、名瀬市名誉市民十年と節目の年でした。

神父様の業績については周知のことでしょうが、奄美の社会福祉の父と慕われて①名瀬天使園②白百合の寮③きぼうの星学園の設立に尽力されました。また

「南日本文化賞」「南海文化賞」「毎日社会福祉顕彰」



ゼローム神父

を受賞され名瀬市名誉市民に推戴されました。

神父様については教区報でも平成十五年一月号「奄美来島五十年を迎えたゼローム神父に宣教師の心を開く」、四月号「奄美の父ゼローム神父帰天」と載りましたので、私なりに偲びたいと思います。

神父様は奄美が日本に復帰する一年前の昭和二十七年に来島され、戦後の貧しい奄美から、豊かになった平成十五年までの奄美を見てこられたわけですから。戦後の荒廃した奄美での宣教は大変だったと思います。奄美群島は復帰後の昭和二十八年から平成十四年まで、国の復興、振興開発特別措置法により、一兆七千億円の予算で、道路、港湾、

空港棟の公共施設が整備されました。神父様はまだ整備されていない砂利道の山道などを荷物を持って各集落へ歩いて宣教し、秘跡を授けていかれました。夏の太陽がかんかん照る日や冬の寒い北風が吹きまくる日などは特に大変だったことでしょう。

ある集落で疲れた神父様に一婦人が熱したパイヤをあげたそうです。神父様はそれを食べて元気が出たと話されたことがありました。私は神父様がパイヤ好きということを知っていましたので、亡くなる二年前、西仲勝教会に一人で住んでおられたとき、私は自分の畑で収穫した熟したパイヤを差し上げた嬉んでくれました。その時の会話の中で私が「神父様の

奄美での宣教で一番嬉しかったことは何ですか」と尋ねたら「西阿室教会や山間教会、大棚教会などでの集団洗礼と大島出身の聖職者(教区の子の中からの司祭や修道女)がアフリカなどの海外でも宣教していることです」と答えられました。

晩年はもっぱら病院訪問をされて、苦しむ病人達を慰めておられました。神父様自身も何回か入院されましたが、病室では見舞いに来た人々を逆に慰めていたそうです。聖書の「そこで、王は答える『はつきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしに

殉教者を忘れない

中高生長崎巡礼の思い出

参加者の感想文の中から

「ぼくは、コルベ記念館に行ったときに『あつ、コ

ルベってぼくのれい名だ』と思いました。けどぼくは、コルベはなにをした人かわかりませんでした。(中略)

ぼくは、コルベがさいごまでいきのこったのは、まいにちお祈りをしていたからだだと思います」(美幸侑馬 中一 大熊教会)

「この巡礼をして思ったことは、浦上天主堂の時に見たあの『被爆のマリア様』でした。(中略)これは神様が僕たちに何かメッセージを伝えてくれているのかなあと思いました。その答えが少ししか分かっていないので、少しずつ少しずつ理解という大きな一歩を踏みし

めるように努力していきたいです」(政 翔一朗 中二 古田町教会)

「今までの私にとって教会ってなんだったんだらうとふと考えました。たぶん祈るためのものだったんじゃないかと思いましたが、でもこの旅に来て、この場所で殉教したいろいろな人々を思うと、私ももつと『信じる』ということをしていきたいと思ってきました」(福留里沙 中三 志布志教会)

「この巡礼に参加して一番嬉しかったことは、たくさんのお世代のカトリック信者の人々と交流が持てたことです。徳島では信者数が少なく、特に中高生はほとんどいないので、この巡礼での交流はなんだか新鮮でした」(泉 真理 高二 母間教会)

「今は、迫害されるといふことはないとはいえませんが、自分が信者であることは誇りに思い、強い信仰を持ってふりかえり、それを貫き通していきたいです」(村上周 中三 鴨池教会)

「私は今年でこの巡礼に参加するのは三回目です。なぜ毎年参加しているのかというと、この長崎の地で、昔、信仰の熱い人たちがいて、このキリスト教を守るために、何人もの人たちが命を落としたというのを忘れないためです」(福留 里奈 高二 志布志教会)

文芸

短歌 (思川短歌会作品)

大口 森 博伸

みこころよ御身の微笑のさみしさ
はかのわが咎がムチとなりしや
たわごとと黙し給うや御身へのわ
がことはなり想いなりしに
(評) 主観は信仰の宝ものど説く
歌で、「微笑みのさみしさ」が
よい。

阿久根 中津濱フサエ

明けやまぬホームに鳴かん鳥の声
めざめし床に清しく聞こゆ
島かげに沈む夕日にみせられて明

日を夢見つ今日も暮れたり
(評) 「島かげに沈む夕日」が浮か
んでくる詩情豊かな歌です。

古仁屋 豊島忠司

シスターが「祈り続けなさい」と
言ふ馬小屋祭に雨の禍はなし
紅白の躑躅が散り敷く門燈の薄ら
灯りに花踏み侍つ
(評) 「祈り続けなさい」の声か聞
こえてくる歌。門燈の薄灯り
の表現がよい。

鹿兒島 春山マリ子

病む我ら包みし神父シスターの祈
り聞こえん面会室に
聖母像母の姿に似ておりぬ精一杯
の心弾ませ

俳句 (思川俳句会作品)

名瀬 松畑義弘

雨上り紫陽花どきの愁ひかな
心地よく装い軽し更衣
(評) 「紫陽花どき」の表白がよい。
更衣も季節感が伝わる佳作で
す。

鹿兒島 徳永ノブ子

黙想会終えて和むや春日立つ

何はとも元気を祈る四月かな
(評) 何はとも「元気を祈る」が
よい。「春日立つ」も清々しい。

鹿兒島 本城 愛

山桜一夜の雨の残り花
散る桜初夏の香りのふぶく里
(評) 「残り花」も「散る桜」もふ
ぶく故郷を慕う佳作です。

鹿兒島 春山マリ子

チューリップ赤赤燃ゆる吾が扉
(評) 歓心が伝わってくる客観的
な作品です。

鹿兒島 龍門司真人

門付けの立ち下りたる聖堂かな
酒飲めぬ哀しさの野に遊びけり

会員募集

思川短歌会・俳句会

あなたの祈りの短歌、俳句を毎月3首、3句以内を書いて会宛にお送りください。

〒890-0064 鴨池新町3-5-402

田平新太郎方 (TEL.099-255-4261)

思川短歌会 思川俳句会

映画「パッション」



「パッション」とはキリストの受難のこと。カトリック信者メル・ギブソン監督が描くイエス・キリストの最後の十二時間。シネシティ文化で五月一日(土)からロードショー。